

今、ガス冷暖房が、 きてます!



ガス冷暖房は、
いろんなところで大活躍!
さあ、快適節電の時代へ。

ガス冷暖房に関するお問い合わせは **0120-506-914**

<http://www.osakagas.co.jp>

省エネの鬼

検索

進むエネルギー革新

家庭ではF・C・Vよりい
ち早く、水素で電気と熱
を生み出す燃料電池（F
C）が普及している。家
庭用F・Cを販売するガス
会社や石油会社などの統
一ブランド商品「エネフ
アーム」で、電機メーカ
ーと共同開発した、09年
の発売から14年6月まで
に累計販売は全国で約9
万3000台に伸びた。
中でも大阪ガスは9月
上旬、東京ガスに次いで
累計販売3万台を達成し
た。補助金や値引きも含
めると実売価格が100
万、150万円で購入で
きる低価格化が進み、普
及に弾みがついている。
都市ガスなどを改質し取
り出した水素で発電し、
排熱も給湯に使える効率
の高さに優れる。最新の
機種ではエネルギー総合
効率が95%にも上る。
課題は補助金がなくな
っても購入できる低価格
化や、小型・軽量化で集

関西電力も高度経済成
長の時代から省エネの多
様なノウハウを蓄積して
きた。子会社の関西エネ
ルギーソリューションは
大阪市北区の堂島川と土
佐堀川に挟まれた中之島

河川水の熱で冷暖房

大阪・中之島地区 関電子会社が展開



二・三丁目地区で、河川
水の熱を利用したヒート
ポンプ技術による冷暖房
サービスを手がける。
同地区は超高層ビルが
立ち並び大阪有数のオフ
イス街。関電ビルや中之
島フエスティバルタワ
ー、私鉄駅など六つの建
物に冷暖房の熱を供給
し、17年には新設ビルも
対象に加える。
関電ビルの場合、ビル
本体の省エネ対策と合わ
せた地域熱供給の省エネ
効果は約30%。同地区で

中之島以外に
も熱供給地域
を広げたい
を。……
中之島地区の
高層ビル街、
高効率な地域
熱供給が拡大
している。

「エネファーム」累計販売 大ガス、3万台を達成

合住宅にも設置しやすく
する技術革新。量産によ
るコスト削減や材質、設
計の刷新によるコンパク

ト化が求められる。
大阪ガスの尾崎裕社長
は、「給湯に優れた家庭用
コージェネレーション
（熱電併給）の『エネフ
アーム』とともに、販売を
伸ばしたい」と意欲を示
す。



しかし、水素ステ
ーションがガソリンスタン
ドのように各地にうまく
設置されない。F・C・V
は普及しない。そこで政
府とエネルギー業界は協
力し、15年度までに水素
ステーションを全国にま
ず100カ所整備する計
画を進めている。その第
1号が尼崎市の水素ステ
ーションになる。水素の
トランプカードである岩
谷産業が水素社会をリー
ドするため、先陣を切っ
た。F・C・Vの価格も補助
金を含めれば500万円
程度まで下がる見通し。
F・C・Vが走行する画期的
な時代が、欧米や日本で
も始まるうとしている。
ただ、本格的な普及に
は1箇所あたり4億、5
億円かかる水素ステ
ーションの設備費や、F・C
の価格低減が欠か
せない。当初は水素ステ
ーションが少ない利便性
……

岩谷産業が兵庫県尼崎市
に開設した水素ステ
ーション
の低さや投資リスクの高
さから、狙い通りに進
まないおそれもある。
それを打ち破るのに必
要なのは、技術革新や事
業に加わる企業の広がり
だ。水素充填設備の価格
を引き下げる性能向上や
小型化の開発は、すでに
複数のメーカーで始ま
った。充填装置をトレーラ
ーに積み移動し、広域を
カバーして採算性を改善
する技術も導入される。
一方、水素の原料は当
面、化学工場で副産物と
して生じる水素や、天然
ガスの改質により確保さ
れる。しかし、将来はコ
ストが安い海外で太陽光
などの再生可能エネルギ
ーにより水を電気分解し
て生成し、現地で液化水
素に加工して輸入する壮
大な構想もある。水素は
無尽蔵のエネルギーとな
る潜在力を秘めている。
水素社会のハードルは高
いが、日本が世界をリー
ドするフロンティアとし
て期待が寄せられる。

水素ステーション開設

商用で
国内初
岩谷産業、兵庫・尼崎に

「いよいよ、水素社会
が幕を開けた」。岩谷
産業の野村雅男社長は7
月14日、国内初となる商
用水素ステーションを兵
庫県尼崎市の同社事業所
に開設した式典で力強く
宣言した。
水素ステーションは1
時間に、燃料電池車（F
C・V）6台へ燃料の水素

を充填できる。F・C・Vは
水素と酸素の化学反応に
よる電気で走るの排ガ
スが出ず、一度の充填で
ガソリン車を上回る長距
でに相次ぎ発売する計画

新興国の経済成長によるエネルギー消費の増大や温室効果ガスの地球温暖化問題などから、新
エネや省エネの必要性が世界的に高まっている。日本も資源が乏しくエネルギーを輸入に頼って
いるうえに、安全面から原子力発電への依存も減らすため、エネルギー革新はどの国よりも欠か
せない。中でも、関西地域は国内で先陣を切る水素利用の基盤整備や、省エネ技術で国内トップ
クラスを走っている。先進的なプロジェクトや地域の取り組みからは、エネルギー革新の未来図
が見えてくる。

エネルギー

昭和28年、イワタニは日本で初めて

家庭用LPガス・Maruigasを発売。

現在、全国310万世帯に愛されるブランドになりました。

その歴史の中で、私たちはいち早く

理想のクリーンエネルギー水素にも着目し、

その可能性を追求し続けてきました。

そして、いまや水素は、暮らしのエネルギーの

主役になる日がすぐそこまできています。

イワタニは、LPガス供給で確立した

全国販売ネットワークを通じて、

来たるべき水素エネルギー社会を

支えていきたいと考えています。

ガス&エネルギーで未来を拓く

Iwatani

岩谷産業株式会社

<http://www.iwatani.co.jp/>

この道は、
水素を届ける
明日につながる。

